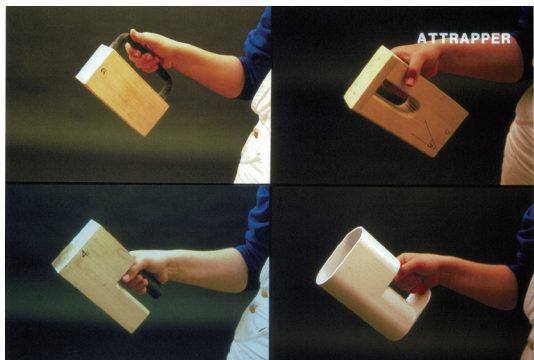
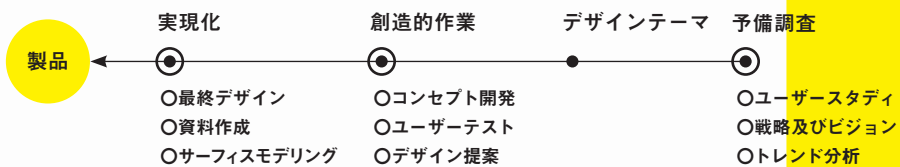




客室乗務員の腱鞘炎を防ぐための軽量化を図りながら、どんな方向から持っても腕に負担がかかりにくいフォルムを検証し、実現した。



「日本ではデザインという言葉が、鑑賞する（芸術や装飾）という意味を持ち過ぎ、結果、軽く、浅く扱われているように思う」と話すのは、元エルゴノミクスデザイン・ジャパン（株）代表取締役のダーグ・クリング・ステットさん。人間工学をベースとしたデザインを日本に紹介する中で、日本でのデザイン定義が自国であるスウェーデンのそれとあまりにも違うことに驚いたと言われます。「デザインとは何か——それは『問題の解決』をすること。アイデアが出てから、そのモノを使い手が処分するまでのプロセス全てがデザイン。外見より

誤解だらけの デザイン論

も、そのデザインで『何が解決されたのか』を考えなければ」。

製品、システム、社会インフラなど全ての物事に関して何か問題が生じた時、人は解決策を考えます。どんな人たちが、どんな場所で、どう使い、使い終わるとどうなるのか：問題を検証し、分析し、解決へ向けて設計をすること。それがデザインです。単に見た目を美しくする行為ではありません。美しさを追求しながらも、明確な目的を持ち、優れた機能で問題を解決できなくては意味がないのです。



スカンジナビア航空 (SAS) の機内で使用されるポット。揺れやすい機内でも最後まで注ぎやすく、液漏れを防ぐために注ぎ口は二重になっている。

[特集]

デザイン考

Design is not just what it looks like and feels like. Design is how it works. (デザインとは、単にどのように見えるか、どのように感じるかということではない。どう機能するかだ) —スティーブ・ジョブズの言葉です。デザインとは、物の形や色、見た目の美しさやインパクトなど、外見のことだと思われがちです。しかし、恰好はいいけれど使いにくい文房具、お洒落だけれど長時間歩けない靴など、見た目を優先して本来の機能を損なってしまうならば、それらはもはや、デザインとは言わない、言えないのです。

※スティーブ・ジョブズ：1955-2011 米国の実業家・資産家。アップル社の共同設立者の一人であり前CEO。

The
SWEDEN
HOUSE

THE PERFORMANCE FOR OUR PLANET



CONTENTS

3
[Special]
デザイン考

8
[Owner's Story]
FOR CHILDREN, FOR ALL
本当のやさしさ。

14
[Technology]
機能するデザイン

18
[Culture]
私の小宇宙 Sweden

19
[Essay]
ウフフの我が家

20
[Life Style]
The moment of mjuk !

22
[Sweden Hills]
Sketch from
Sweden Hills

24
[OWNER'S CIRCLE]
Good Neighbors

26
[SWEDEN HOUSE CIRCLE]
Good Neighbors

企画・発行：スウェーデンハウス（株）
発行人：岡田 正人
編集人：大竹 愛子
プロデュース：（株）DGコミュニケーションズ
制作：（株）東北新社



プラスか、マイナスか…ドライバーの先端を見なくてもどんな形状なのかわかるように、持ち手の裏に形状を表記し色分けしてある。

問題解決がデザインを生んだ スウェーデン

家具や車、家電、ファッション、工具など、洗練された美しさが人気のスウェーディッシュデザイン。中でも子どもや高齢者、障害を持つ人に対する「人にやさしい」と言われる分野でのデザインは評価が高く、各国から注目を浴びています。そしてそのデザインの歴史こそ、「問題の解決」を繰り返してきた、スウェーデンの歴史であると言えるのです。

1969年、スウェーデンでは国立障害研究所が設立されました。第二次世界大戦に参戦しなかったスウェーデンは、60年代で早くも高齢社会となり、世界に先駆け、一から対応を考えねばなりませんでした。高齢者や障害を持つ人の尊厳

をどのように守るべきか。共に快適に生きるためには何が必要なのか——問題に直面し、社会のさまざまなデザインを見直す必要に迫られていたのです。

スウェーデンは国をあげて取り組みました。人間の身体の仕組みや弱い部分を徹底的に研究し、負担を軽減できる製品開発を始めると同時に、車椅子でどこまでも行ける街づくり、高齢者でも乗り降りしやすい交通機関など、インフラの整備もスタート。高齢者や障害を持つ人が、できるだけ人の手を借りずに、自立した生活を送れる社会を目指しました。そして研究・分析が進んでいくにつれ、高齢や障害に関係なく、みんなに快適なデザ

スウェーデンのポストは国旗色の黄色とブルー。黄色は国際・地方郵送でブルーは地域郵送用。子どもでも高齢者でも一目で識別できる。



インとは？という点についても、理解が進むようになってきました。

もって時代をさかのぼると、スウェーデンは1946年、国の予算で主婦たちの仕事場である家庭内の調査・分析も行っています。キッチンや洗面所の寸法・動線をはじめとするあらゆるデザインが、人間工学的に無理がないか、無駄がないか——それは男性たちと同じように、主婦たちも高い生産性を持つようにという狙いと、家事の負担を減らすための製品開発に役立てるためでした。結果、主婦たちは家事の効率化により身体的負担を軽

ストライプの色と太さで乳脂肪分を見分けられるミルクパッケージ。線が細くなるにしたがって、乳脂肪分が少なくなっていく。



時代を超える「本物」へ

真の意味でのデザインを、幅広い分野で、国をあげて展開しているスウェーデン。生きるための基盤である住環境についても、長い時間をかけ、住む人の快適がデザインされてきました。人が一生を過ごす家はどうあるべきか。単に雨風をしのぐだけでなく、豊かな時間を重ねていくには何が必要か——過ごしやすく、安全であること。心身へのストレスが少ないこと。人としての尊厳が守られ、快適であること。いつまでも住み続けられること：スウェーデン住宅には、さまざまな問題を解決した、「機能するデザイン」が備わっています。そして人々は、それを当たり前のこととして暮らしています。これほど豊かなことはありません。優れた機能でより多くの人の快適を支えることに成功したデザインは、単なる「流行」とは一線を画し、頻繁に形を変える必要がありません。それは時代を超えて愛される、「本物」となるのです。

今から30年前、スウェーデンハウスの創始者たちがスクラップ&ビルドを繰り返し、返す日本住宅の状況を憂い、スウェーデンを訪れた際に出合った家が、それでした。彼らはスウェーデン住宅の成熟した



デザインを、住思想ごと日本に持ち帰り、紹介しました。日本の気候等に合わせ、細かい改良こそ施されましたが、スウェーデンハウスは今でも当時の「機能するデザイン」のまま、ワンスペックで住宅を提供しています。そしてそれは、単に住宅を提供するというを超え、住まう人々に豊かな時間を、健康な毎日を、繋がつていくぬくもりを、提供しているのだと確信しています。

「デザインはコストではなく投資」——スウェーデン住宅に住む人に与えてくれる多くの喜びを思う時、その言葉の真の意味を教えられる気がします。

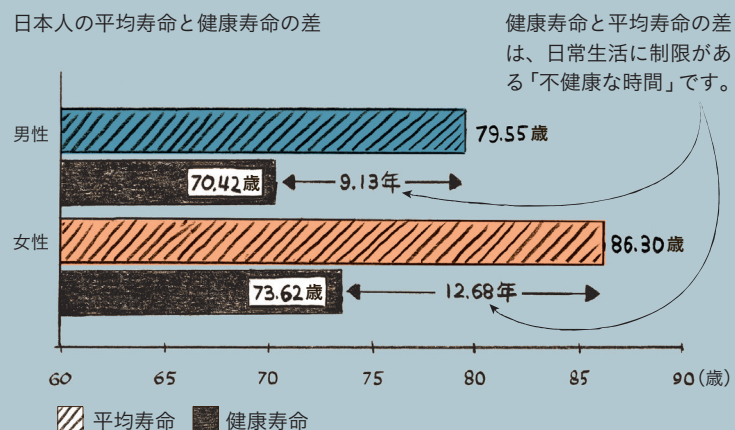
取材協力
DAG KLINGSTEDT (ダグ・クリングステット)
スウェーデン・ノールショ生まれ。ストックホルム大学東アジア研究学部（日本語日本学専攻）卒。1984年：スカンジナビア最大手の家電、自動車雑誌の日本特派員に。1991年：在日スウェーデン大使館・二等書記官。日瑞両国間の経済・文化関係の推進に関して、スウェーデン最大手の福祉用具メーカーETAC社やスウェーデン貿易公団など数々の企業や政府機関のコンサルタントやアドバイザーを務める。2001年：エルゴノミデザイン社日本駐在員事務所設立。2009年：KOYA 株式会社設立。



健康寿命を 延ばすことが鍵

健康上の問題で、日常生活が制限されることのない期間を「健康寿命」といいます。日本における健康寿命と平均寿命の差は、男性が9.13年、女性が12.68年※2です。この差は、医療や介護サポートを受けて生活する期間を示します。健康寿命を平均寿命に近づけることが高齢者自身の生活はもちろん、家族にとっても幸せな暮らしにつながります。

日本人の平均寿命と健康寿命の差



福祉の国の 住宅思想

スウェーデンは日本より80年も前に高齢化に直面し、1890年には65歳以上が人口の7%に達する高齢化社会を迎えました。1960年代からは要介護者を含めた誰もが、できる限り同じように一般社会の中で人生を送れることを権利として認める「ノーマライゼーション」の考え方を取り入れ、国を挙げて取り組みました。また在宅介護や在宅医療にも力を入れ、より多くの人が自宅で安心して生活を送れるように努めてきました。2014年のスウェーデンのデータ※1では、65歳以上の高齢者のうち特別住宅（介護施設、サービスハウス、グループホーム、医療施設の総称）に住む人は約5%。つまり高齢者の95%は自宅で生活しています。

日本の高齢化

日本は世界のどの国より早い速度で高齢化が進み、1970年に7.1%だった高齢化率が、2013年には25.1%となり、すでに超高齢化社会に突入しています。世界有数の長寿国となった今、健康な状態で人生を楽しむために、病気の予防や食生活の改善と同様に、健康に過ごす住環境にも関心が高まっています。

スウェーデン ハウスの 快適テクノロジー

なるほど

そうなんだ

SWEDENHOUSE TECHNOLOGY 2.

スウェーデンハウスの 機能するデザイン

人が一生を過ごす家はどうあるべきか。

豊かな時間を重ねていくには何が必要か…。

“より多くの人にやさしい住まい”について、探ってみましょう。

多様な私たちの 多様なニーズ

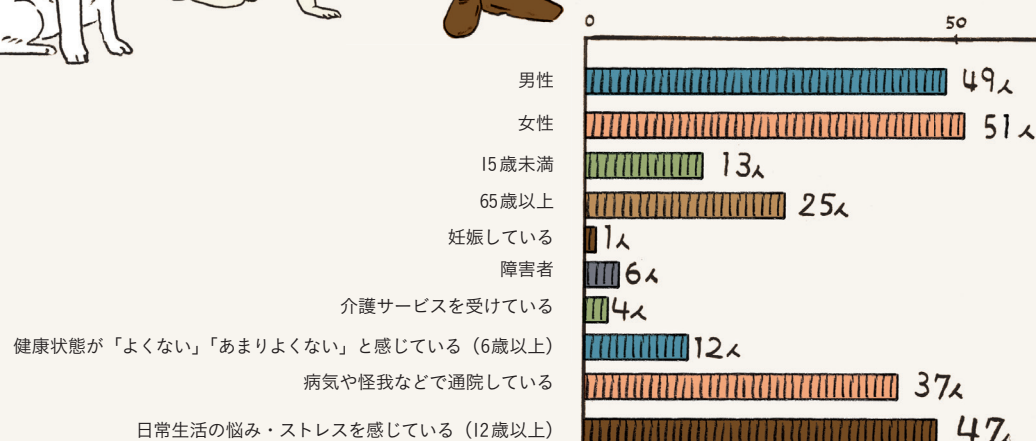
子ども、大人、高齢者…私たちの社会には、さまざまな年齢層の人が暮らしています。身体の特長や能力は年齢層によって大きく異なり、同時にそれぞれが個性を持っているので、生じるニーズは多様です。さらに、私たち一人ひとりの時間の経過によって生活や身体能力がさまざまに変化し、怪我や病気、妊娠のような一時的にそれまでとは違った状況(=個性)になることもあります。下グラフは日本を人口100人の国に例えたものです。年齢や性別の違いをはじめ、さまざまな健康状態の人がいることがよくわかります。長く住み継ぐ住まいには、多様でさまざまに変化する住まい手の個性を、柔軟に受け止める環境が大切なのです。

変化する個性を 受け止める

福祉先進国ならではの住思想を受け継ぐスウェーデンハウスは、個性の変化を柔軟に受け止める住まいを目指しています。具体的には性別や年代、体調を問わず多くの人(=個性)が使いやすい広さや寸法、健康的で快適な温熱環境。さらに快適な環境を長く維持するための耐久性や省エネルギー性、メンテナンスのしやすさ、長く愛せる美しさ、環境への配慮などです。

これらがバランス良く機能することで、赤ちゃんや高齢の方はもちろん車椅子が必要になった時にも、安心して健康的に過ごすことのできる、柔軟性が住まいに備わります。スウェーデンハウスは、個性が変化しても暮らす人が不自由さや不便を感じることなく、より多くの方々を受け止める家でありたいと願っています。

※1 Socialstyrelsen, Statistics Sweden
による ※2 出典：厚生科学審議会
地域保健健康増進栄養部会・次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会「健康日本21(第二次)の推進に関する参考資料」P.25より



人口100人で
みた日本

出典：厚生労働省 平成26年度版『厚生労働白書』健康長寿社会の実現に向けて
～健康・予防元年～「100人での日本」より

スウェーデンハウスでは有効幅 920mm 以上、蹴上げ（高さ）195mm 以下、踏み面（奥行き）が 210mm 以上の、ゆったりとした幅で、なだらかな勾配の階段を採用しています。また、明るい色調のバイン材を使用していることで、壁に囲まれ暗くなりがちな階段スペースに明るさが加わり、実際の面積以上の広がりを感じられる空間になります。標準仕様の階段の手摺りにはグリップ溝をつけて握りやすさがプラスされており、小さなお子様からご高齢の方まで、気持ちよく安全に利用できます。

なだらかな
「階段」

赤ちゃんからお年寄りまで、
快適に過ごすために、
スウェーデンハウスが備えている
さまざまな機能。
複合的にバランスよく備わることで
「機能するデザイン」になります。

ゆとりの
「1200mm モジュール」

持続可能な
「省エネルギー性能」

1 年を通じて家中が快適であることは大切なことです。しかし、そのためにエネルギーを大量消費するような暮らしは、ランニングコストがかかる上に地球環境への負荷も大きく、長続きできません。スウェーデンハウスの高い気密・断熱性能は、冷暖房コストを大幅に低減し、極めて少ないエネルギーで快適な温熱環境を保つことができます。

家族の命を守り、安心して長く暮らすためには、耐久性ももちろん必要。スウェーデンハウスは、台風や地震などにも耐える強さを持ち、世代を超えて大切に住み継ぐことができます。

安心・快適のための
「高耐久」

スウェーデンハウスの高い基本性能や部材のサイズは、創業当時から変わりません。例えば 30 年前のオーナー様宅の木製サッシ 3 層ガラス窓は、今も同サイズ。不具合や、リフォームが必要になった時には、補修・交換ができます。また 50 年間無料定期検診システムをはじめ、心地よい暮らしを続けていただくためのサポートも行っています。

「メンテナンス」
のしやすさ

木は CO₂ を吸収することで成長し、その CO₂ は木材として住宅になっても、燃やされるまで固定され続けます。つまり木の家は森と同様に CO₂ を固定する大事な役目を果たしているのです。スウェーデンハウスは、十分に CO₂ を蓄えた樹齢 80 年前後の木を使用し、加えて長寿命の家を叶えることにより、CO₂ 増加の抑制に大きく貢献できます。

「環境」へ
負荷をかけない
材料

ずっと愛される普遍的な美しさも、スウェーデンハウスの魅力の一つです。自然素材の持ち味と温かみには、家族の成長と共に深まっていく時間の経過を、味わいへと変化させる力があります。

時間を超える
「美しさ」

※壁芯での寸法です。

廊下を例に
モジュールの“差”を
見てみましょう。

尺モジュール
910 mm

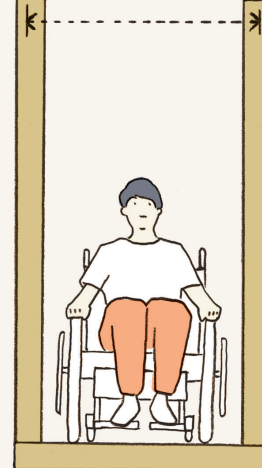
メートルモジュール
1000 mm

スウェーデンハウス
1200 mm



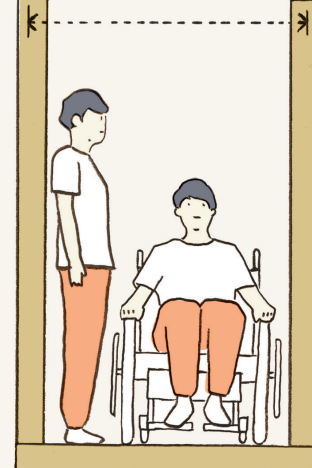
人（成人男子、荷物などなし）

静止時で 450mm、通行時には 700～750mm の幅が必要です。



車椅子

静止時で 700mm、通行時には 1000mm の幅が必要です。



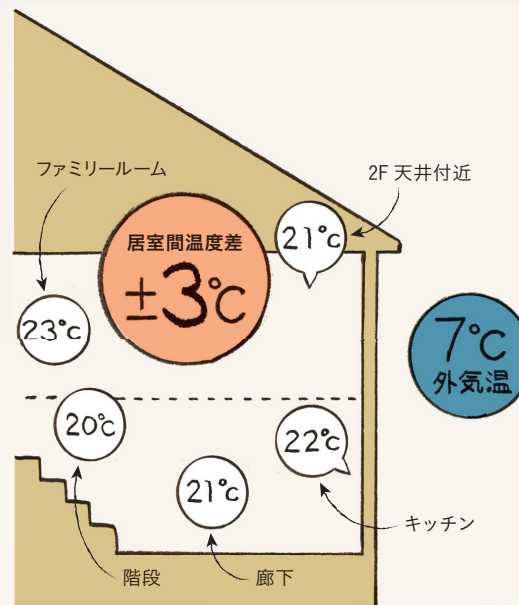
人と車椅子（すれ違い）

1200mm は、車椅子の通行時にも、横向きで人がすれ違うことができる幅です。

「モジュール」とは？ 建築物を設計するとき、基準となる基本寸法のこと。材料の長さや、柱と柱の間隔、空間の広さなどはモジュールの倍数が基本になっています。

「温度」の
バリアフリー

家中の温度差が少ないことは、健康で安全な暮らしには不可欠です。温度差による血圧変動は、身体にとって大きなストレスになります。特に高齢になると体温の調節機能が低下してくるので、家全体の温度をできるだけ同じにすることが重要です。家中がほぼ一定の温度のスウェーデンハウスは、急激な温度変化が引き起こすヒートショックはもちろん、室内外の温度差によって発生する結露の心配がないため、カビを防ぎ、健康への悪影響も回避できます。



各室温、外気温は 2006 年 1 月 8 日正午に
当社駒沢モデルハウスにて計測。